

そ

それぞれ別々の家庭生活を送る二世帯が、一緒に暮らすとなった場合、上下で分ける二世帯住宅、左右で分ける二世帯住宅など、その居住空間、距離のとり方にはさまざまなスタイルがあります。今回ご紹介する1さん宅の場合、親世帯と子世帯の住まいを同じ敷地に別々に建て、それを二階のバルコニーで繋いで一棟の住宅であるように、互いに行き来できるように計画したケースです。

建築当時、子世帯は一三歳の長男、一〇歳の長女、七歳の次女と三人の子どものある五人家族。夫と妻はともに三九歳でした。親世帯は夫側のご両親で共に六八歳。子世帯は夫が家業を継いでいることもあり、結婚以来ご両親の家から二〜三分のところにあるマンションに暮らしていました。

両親の家の敷地にいずれば二世帯住宅を建てる、という計画はIさんが結婚した頃からあったようですが、のびのびになっていました。当初は一つ屋根の下で暮らす二世帯住宅を、と考えていたのですが、親世帯も子世帯も互いの生活スタイルがすでにできあがっているうえ、インテリアの趣味も異なるので、自然と各々別に建てたほうがいい、ということになりました。

敷地には築三〇年以上になる平屋の本造家屋と庭があったのですが、私は一期工事で庭部分に親世帯の住宅を新築し、二期工事で既存家屋を解体後、そのスペースに子世帯の住宅を増築する計画を提案しました。そのほうが仮

笑顔あふれる二世帯住宅にお邪魔します!

# 独立した2棟をつなぐ バルコニー

飯沼竹一  
Takeichi Imuma

千葉県・Iさん宅



1962年、千葉県生まれ。日本大学理工学部建築学科卒業。病院や福祉施設の設計に携わり、バリアフリーに関するノウハウなどを身につける。2002年、独立。(有)アトリエ24主宰。

住まいの費用などが不要で、施主にとってストレスも少ないと考えたからです。そして、居間などのパブリックな空間を、親・子世帯のそれぞれの建物の二階に配し、バルコニーによって行き来できるようにプランニング。二つの家族がある程度の距離を保ちながら、お互いを気遣えるように配慮。また、両家共有の庭も確保しました。

親世帯は一階に土間のある開放的な客間とキッチン、二階にコンパクトな居間と寝室を設けた間取り。二階の居間の前にはルーフトラスが広がり、そこから子世帯のダイニングの様子を垣間見ることが出来ます。

一方、子世帯は一階にご主人の仕事のための応接コーナーと主寝室、長男の部屋を設け、二階にLDK、三階に二部屋の子ども部屋という間取り。リビングの真ん中に螺旋階段があり、子どもたちの動向が把握しやすいようになっています。二階のリビングダイニ

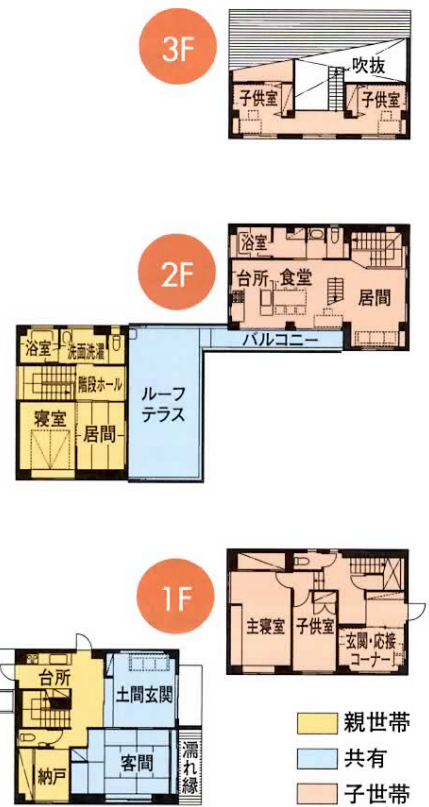
ングの前に設けたバルコニーと親世帯のルーフトラスが繋がっていることで、子どもたちは始終行ったり来たり。学校から帰ってきたとき、両親が仕事で不在でも、おじいちゃん、おばあちゃんが居てくれるので何かと安心です。また、広いルーフトラスは、交通事故の心配がない、安全な遊び場としても活用されているようです。

今回、この家の構造は鉄骨造を採用。近隣する幹線道路の騒音・振動対策を検討した結果であるとともに、親世帯から掃き出し窓を多くし採光と通風のよい家にしてほしいという希望があったため、耐震補強の面でも鉄骨造にする必要がありました。

また、将来の家族構成の変化に対応し、間仕切りをいかようにも変更できるのも鉄骨造の特長。二〇年後には三世帯となり、増築しながら何年も住み続ける家になりたいと願って、家作りをしました。

住まいの費用などが不要で、施主にとってストレスも少ないと考えたからです。そして、居間などのパブリックな空間を、親・子世帯のそれぞれの建物の二階に配し、バルコニーによって行き来できるようにプランニング。二つの家族がある程度の距離を保ちながら、お互いを気遣えるように配慮。また、両家共有の庭も確保しました。

今回の家は、鉄骨造を採用。近隣する幹線道路の騒音・振動対策を検討した結果であるとともに、親世帯から掃き出し窓を多くし採光と通風のよい家にしてほしいという希望があったため、耐震補強の面でも鉄骨造にする必要がありました。







二つの家族がある程度の距離を保ちながら、  
お互いに気遣えるように配慮。  
また、両家共有の庭も確保しました。



(上・上) 2階に設けられている親世帯のルーフトラスと子世帯のバルコニーがつながり、互いのリビングの様子をそれとなく見て、気遣うことができる。子どもたちはここを通過して二世帯間を自由に行き来。ルーフトラスは格好の遊び場でもある。(上)駐車場の奥に見える2階建ての家が親世帯、右手の3階建ての家が子世帯。一見別々の家だが、2棟は2階のベランダで繋がっている。(左上)子世帯2階のLDKスペース。螺旋階段を中心に、リビングとダイニングを開放的な雰囲気のままセパレート。家族は自然とこの空間に集まり、団らんの時間を過ごす。(左下)親世帯の1階には、子や孫が一堂に会することができる客間を設けた。庭を望む縁側付きの和室と、イスの置かれた土間は、戸襖で仕切られているが、広々と一体的な使い方ができる。愛犬のピピは両家に飼っている。